

2016年度 決算説明資料

2017年5月30日



ご説明内容

- 2016年度 決算概況
- 2017年度 通期計画
- 1618中期経営計画の進捗状況

ご説明内容

- 2016年度 決算概況
- 2017年度 通期計画
- 1618中期経営計画の進捗状況

2016年度決算のポイント

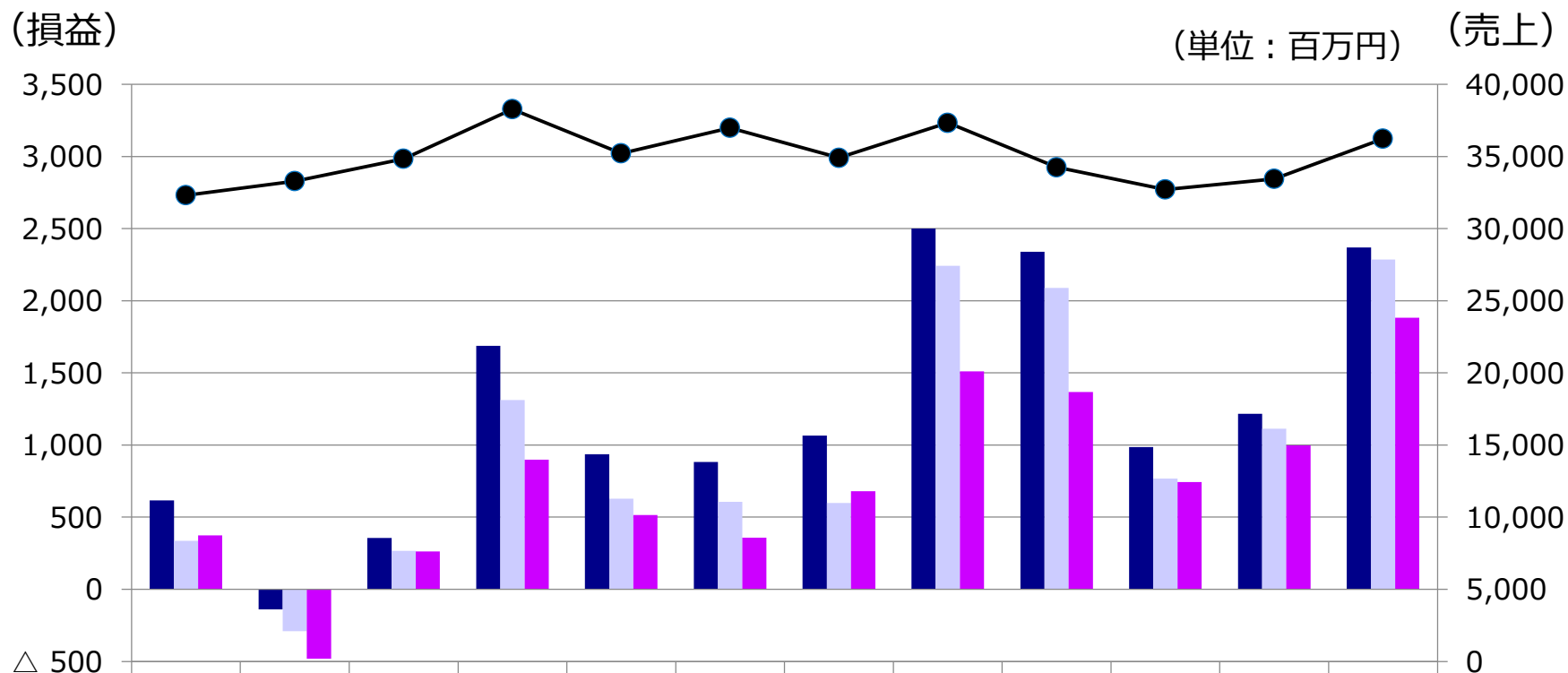
(単位：百万円)

	2015年度		2016年度		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	144,451	100.0%	136,657	100.0%	△7,794	△5.4%
営業利益	5,385	3.7%	6,912	5.1%	1,527	28.4%
経常利益	4,077	2.8%	6,256	4.6%	2,179	53.5%
当期純利益	3,062	2.1%	4,992	3.7%	1,930	63.0%
EPS (円)	118.50円		193.15円		74.65円	

《全体感》

- 売上：受注量は増加。円高基調の為替相場、地金市況下落の影響で売上は減少
- 営業利益：生産性改善、原価低減、販売量増加により増益
- 経常利益：営業利益の増加及び支払利息・為替差損の減少により増益
- 当期純利益：経常利益の増加及び固定資産・投資有価証券の売却益により増益
- EPS：当期純利益の増加により、74.65円/株増加

連結決算概要（四半期推移）



	15/3 1Q	15/3 2Q	15/3 3Q	15/3 4Q	16/3 1Q	16/3 2Q	16/3 3Q	16/3 4Q	17/3 1Q	17/3 2Q	17/3 3Q	17/3 4Q
△ 500												
■ 営業損益	617	△ 139	355	1,688	936	883	1,066	2,500	2,340	986	1,216	2,370
■ 経常損益	336	△ 291	266	1,311	629	607	599	2,242	2,090	767	1,113	2,286
■ 当期純損益	374	△ 481	262	899	514	358	680	1,510	1,368	744	998	1,882
● 売上高	32,312	33,294	34,842	38,279	35,217	36,989	34,913	37,332	34,258	32,718	33,453	36,228

ダイカスト事業

(単位：百万円)

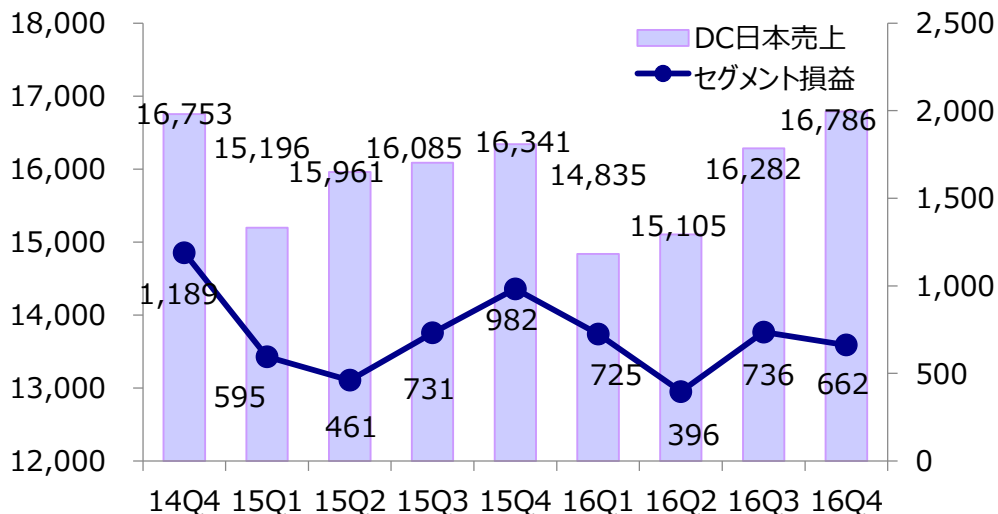
		2015年度		2016年度		増減	
日本	売上高	63,583	100.0%	63,008	100.0%	△575	△0.9%
	セグメント 損益	2,769	4.4%	2,519	4.0%	△250	△9.0%
北米	売上高	45,760	100.0%	40,854	100.0%	△4,906	△10.7%
	セグメント 損益	1,521	3.3%	2,163	5.3%	642	42.2%
アジア	売上高	27,594	100.0%	26,128	100.0%	△1,466	△5.3%
	セグメント 損益	573	2.1%	1,758	6.7%	1,185	206.6%

- ✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2015年度：53.6%⇒2016年度：51.5%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



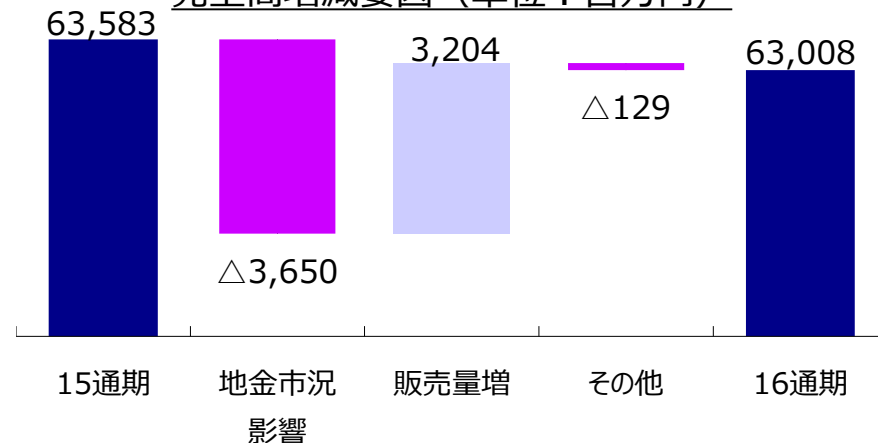
売上：5.7億円減（前期比0.9%減）

- 北米向け輸出は好調。受注量は増加（5.0%増）
- アルミ地金市況下落の影響で売上減少

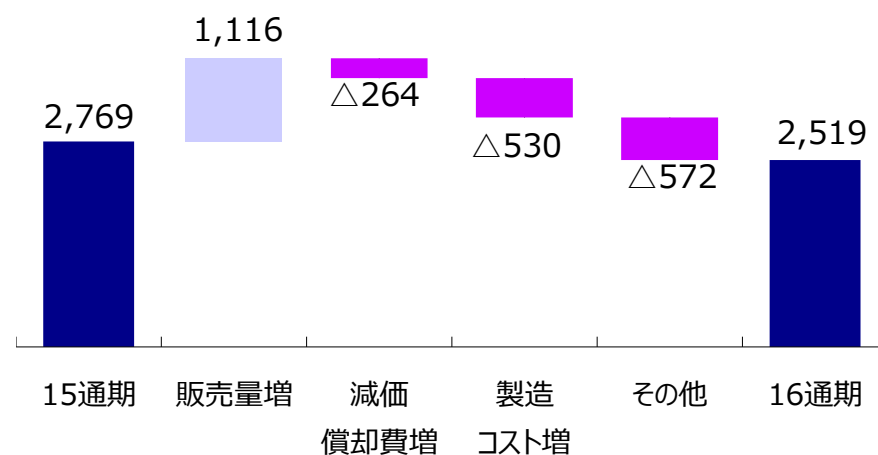
セグメント損益：2.5億円減（前期比9.0%減）

- 減価償却費、労務費の増加等により減益

売上高増減要因（単位：百万円）

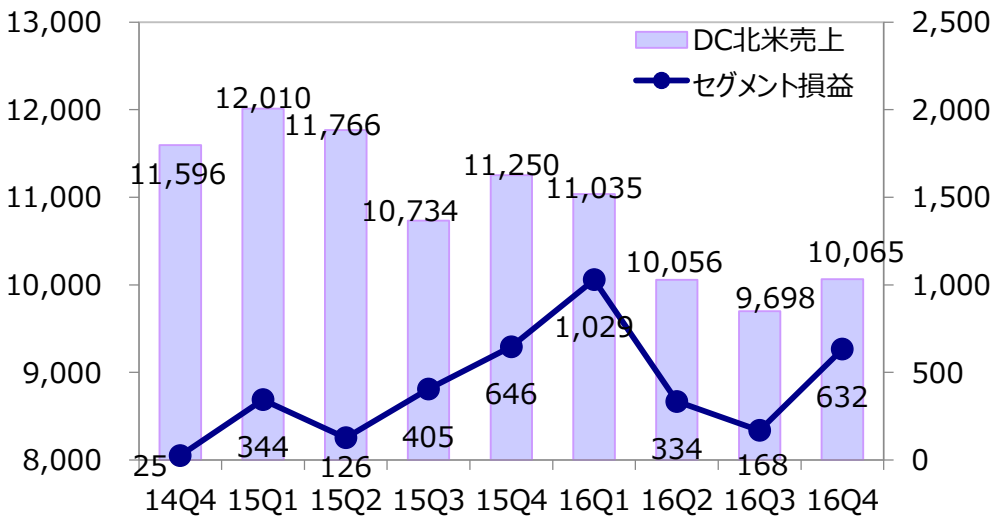


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



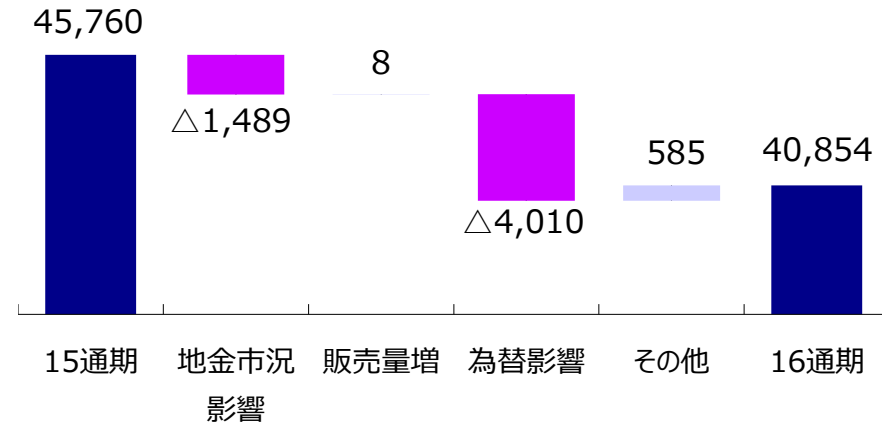
売上：49億円減 (前期比10.7%減)

- ライトトラック系部品の受注が好調
- 一部顧客の生産終了に伴う受注減少
- 地金市況下落及び為替の影響で売上減少

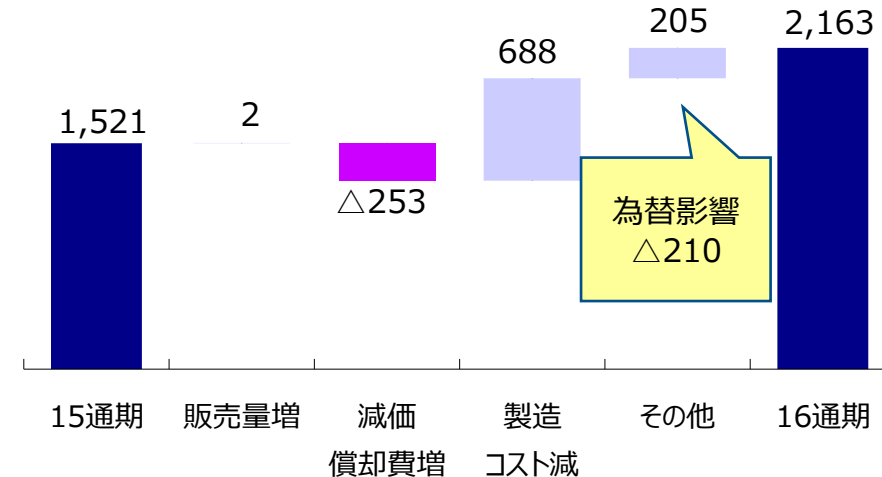
セグメント損益：6.4億円増 (前期比42.2%増)

- 主にメキシコの生産性改善効果により製造コストが減少し増益

売上高増減要因 (単位：百万円)



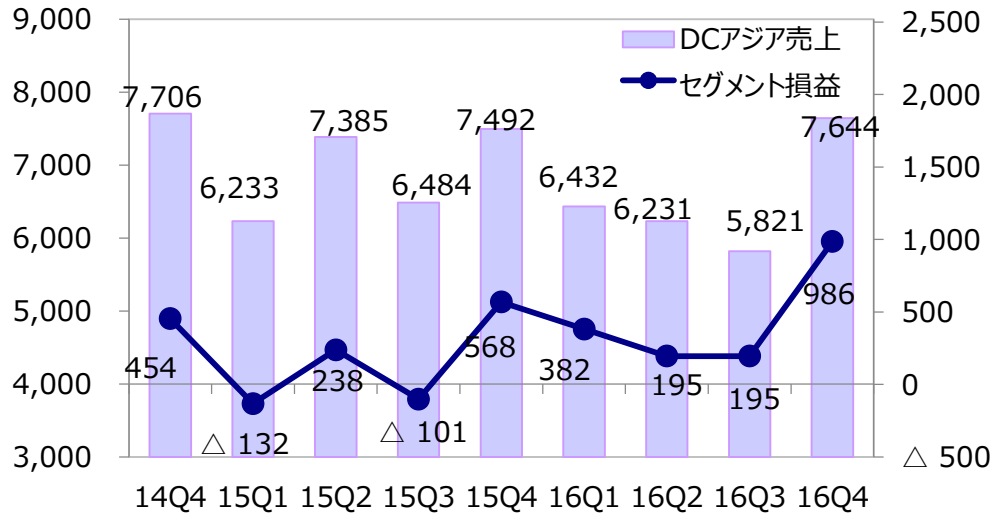
セグメント損益増減要因 (単位：百万円)



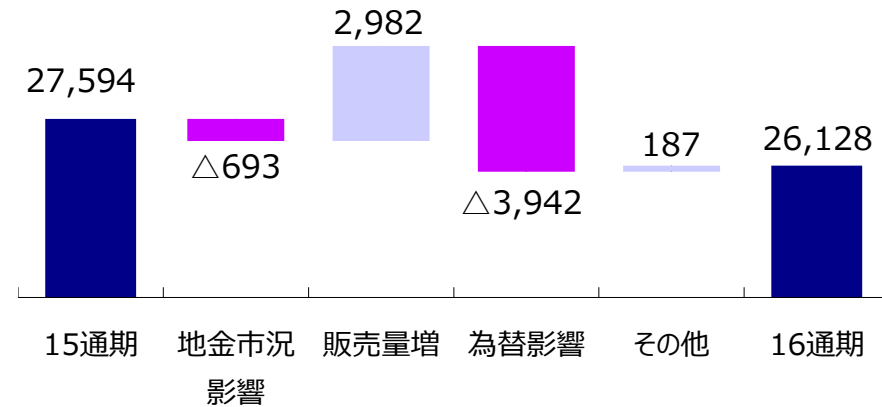
決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期
 レート (15通期⇒16通期) アメリカ 120.01⇒109.18 メキシコ 121.00⇒110.30

ダイカストアジア

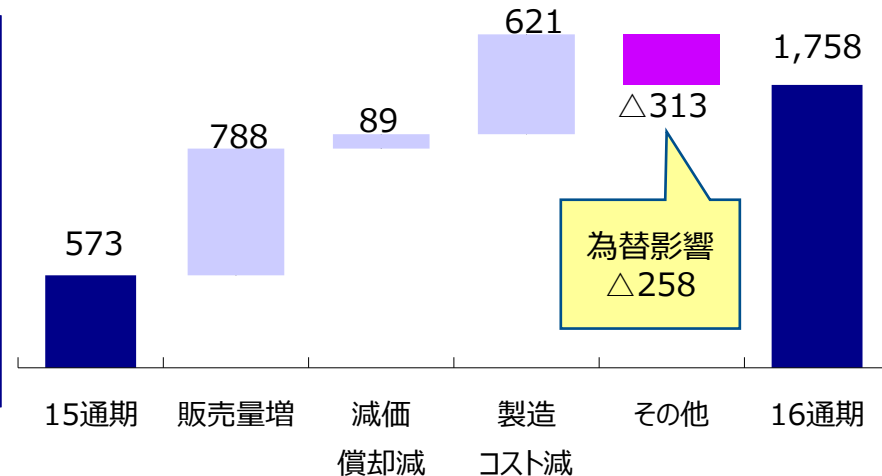
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



売上：14.6億円減（前期比5.3%減）

- 地金市況下落及び為替の影響による売上減少
- 中国で小型車向け新規部品立上げにより受注増加
- インドでディーゼル車離れによる受注減少

セグメント損益：11.8億円増（前期比206.6%増）

- 中国における販売量増加と製造コスト低減により増益

決算期：中国12月期、インド3月期

レート（15通期⇒16通期） 人民元 19.21⇒16.56 インドルピー 1.84⇒1.63

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2015年度		2016年度		増減	
アルミニウム事業	売上高	4,921	100.0%	4,402	100.0%	△519	△10.5%
	セグメント損益	338	6.9%	274	6.2%	△64	△18.9%
完成品事業	売上高	2,590	100.0%	2,263	100.0%	△327	△12.6%
	セグメント損益	212	8.2%	155	6.8%	△57	△26.7%

アルミニウム事業

- 売上：販売量は増加するが販売価格の下落により減収（前期比10.5%減）
- セグメント損益：原価低減活動効果はあったがアルミ市況影響により減益（同18.9%減）

完成品事業

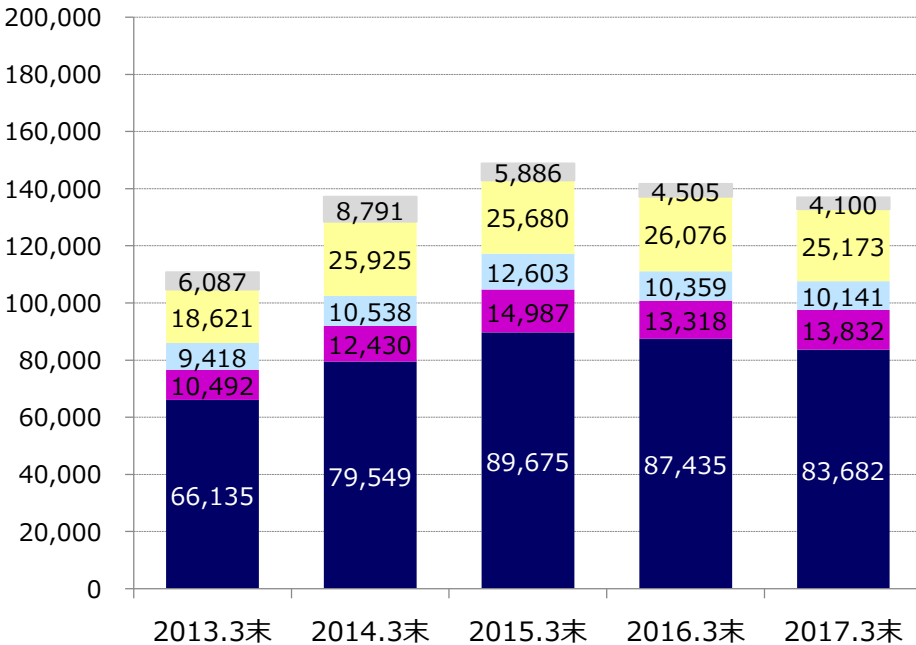
- 売上：半導体関連企業のクリーンルームやコンピュータルームの受注が減少し減収（同12.6%減）
- セグメント損益：減収による影響等により減益（同26.7%減）

※完成品事業には海外の売上・利益は含みません

連結貸借対照表

■ 資産の部

(単位：百万円)



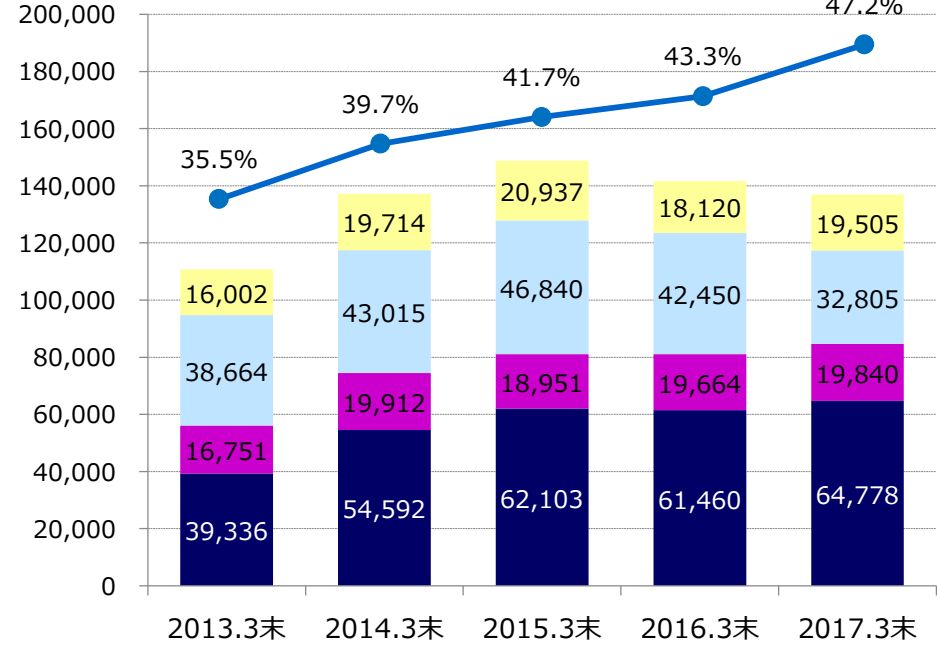
■ 現預金 ■ 売上債権 ■ 棚卸資産 ■ その他資産 ■ 有形無形固定資産

▶ 2016年3月末からの増減

為替影響：40億円減少⇒純増減：約8億の減少
 地金市況影響により原材料在庫が減少
 流動資産：約7億円純減
 (債権流動化、売上額の減少により売上債権が減少)
 固定資産：約1億円純減
 (有形固定資産：国内で純増、海外では減価償却が進み減少)

■ 負債の部

(単位：百万円)

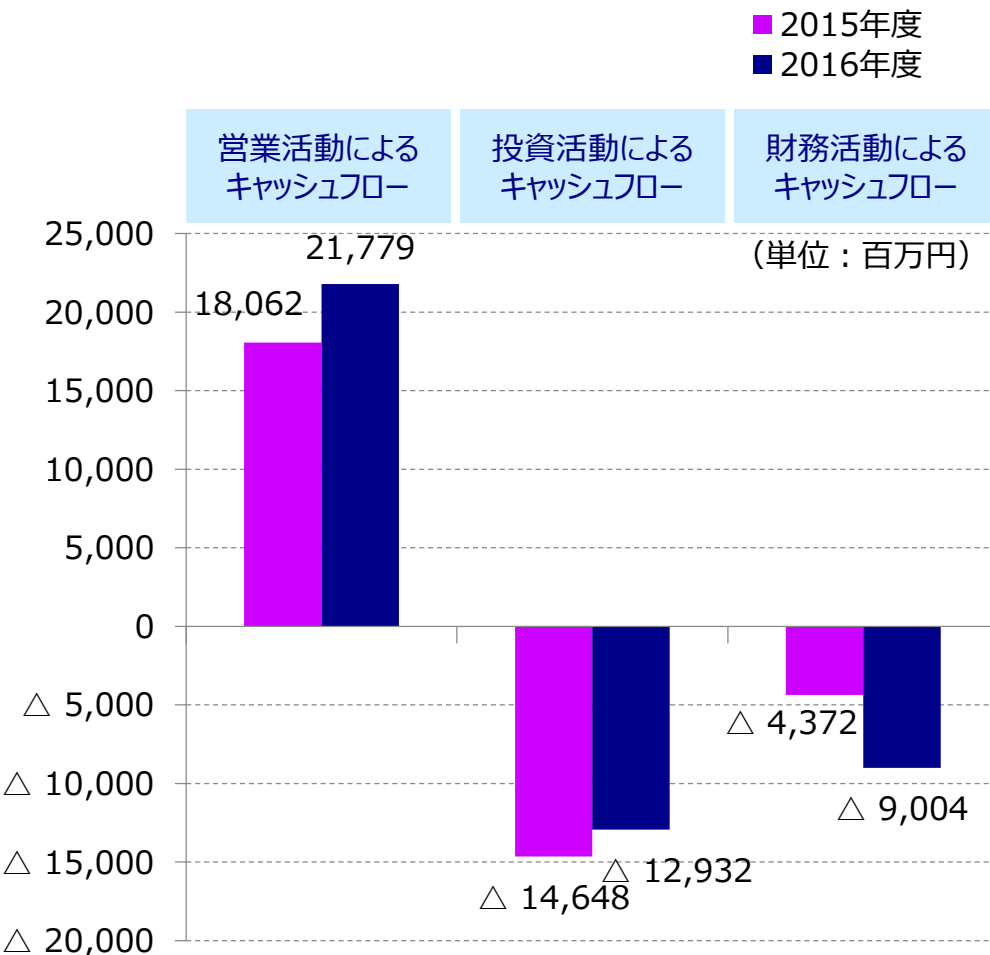


● 自己資本比率
 ■ 仕入債務 ■ 長短借入金 ■ その他負債 ■ 純資産

▶ 2016年3月末からの増減

負債：為替影響：約14億円の減少⇒純増減：約67億円の減少
 流動負債で約14億円純減、固定負債で約53億円純減
 (長短有利子負債の減少)
 純資産：当期純利益等により約46億円増加、為替換算調整勘定等により△13億円となり33億円の純増
 自己資本比率：47.2%となり3.9ポイント改善

連結キャッシュ・フロー



対前期増減要因

- **営業CF +37億**
税金等調整前純利益 +30億
売上債権の増減額 +15億
 債権流動化等による増加
- **投資CF +17億**
国内ではスバル様向け設備投資が増加
海外では設備投資は減少
顧客都合等による投資の見直し・延期
- **財務CF △46億**
フリーキャッシュフローが増加したことにより
長短借入金返済が進む

ご説明内容

- 2016年度 決算概況
- 2017年度 通期計画
- 1618中期経営計画の進捗状況

2017年度 通期計画

(単位：百万円)

	2016年度 実績		2017年度 計画		増減	
売上高	136,657	100.0%	142,000	100.0%	5,343	3.9%
営業利益	6,912	5.1%	7,000	4.9%	88	1.3%
経常利益	6,256	4.6%	6,400	4.5%	144	2.3%
当期純利益	4,992	3.7%	4,400	3.1%	△592	△11.9%

実績の為替レート (通期平均) : USD 米109.18円 メキシコ110.30円 人民元 16.56円 ルピー 1.63円
 計画の前提レート : USD 110円 人民元 16.0円 ルピー 1.6円

2017年度 業績予想

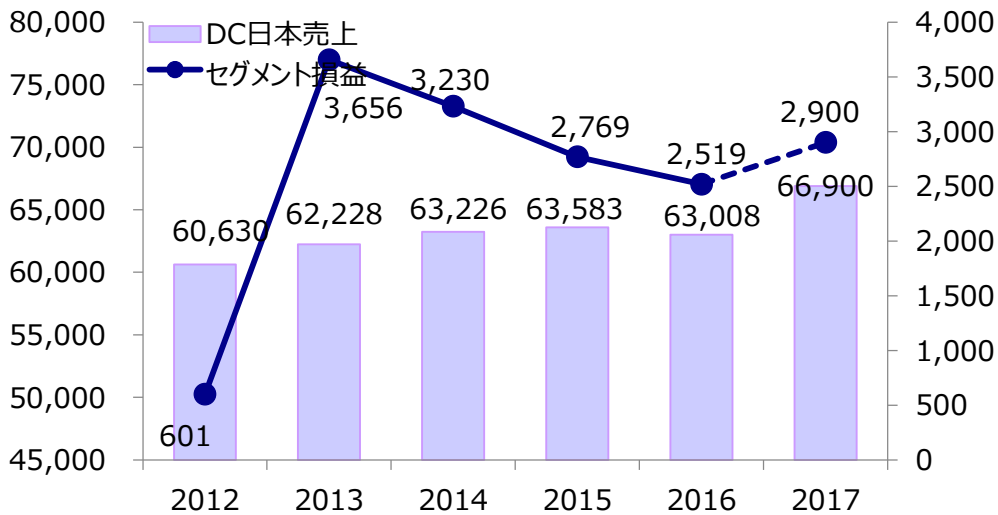
(単位：百万円)

	2016年度 実績	2017年度 計画	増減	増減率
売上高	136,657	142,000	5,343	3.9%
ダイカスト日本	63,008	66,900	3,892	6.2%
ダイカスト北米	40,854	39,900	△954	△2.3%
ダイカストアジア	26,128	28,400	2,272	8.7%
アルミニウム	4,402	4,600	198	4.5%
完成品	2,263	2,200	△63	△2.8%
営業利益	6,912	7,000	88	1.3%
ダイカスト日本	2,519	2,900	381	15.1%
ダイカスト北米	2,163	2,250	87	4.0%
ダイカストアジア	1,758	1,500	△258	△14.7%
アルミニウム	274	250	△24	△8.8%
完成品	155	100	△55	△35.5%
消去または全社	40	—	△40	—
経常利益	6,256	6,400	144	2.3%
当期純利益	4,992	4,400	△592	△11.9%

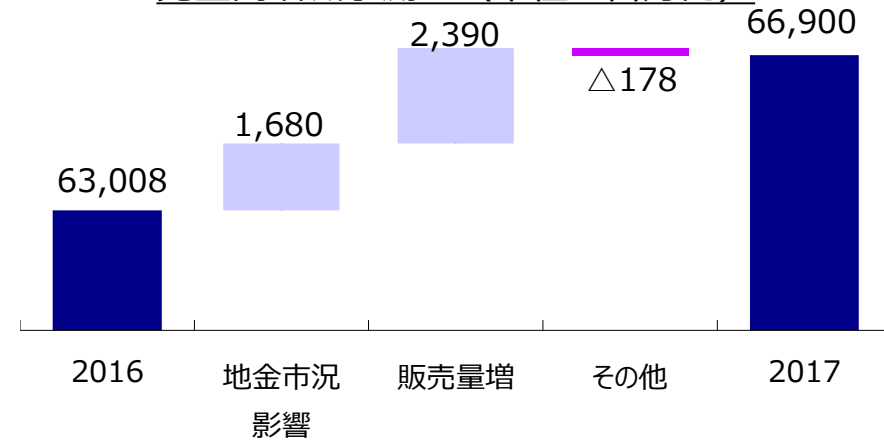
ダイカストセグメントの海外売上高比率 2016年度： 51.5% ⇒ 2017年度： 50.9%

ダイカスト日本

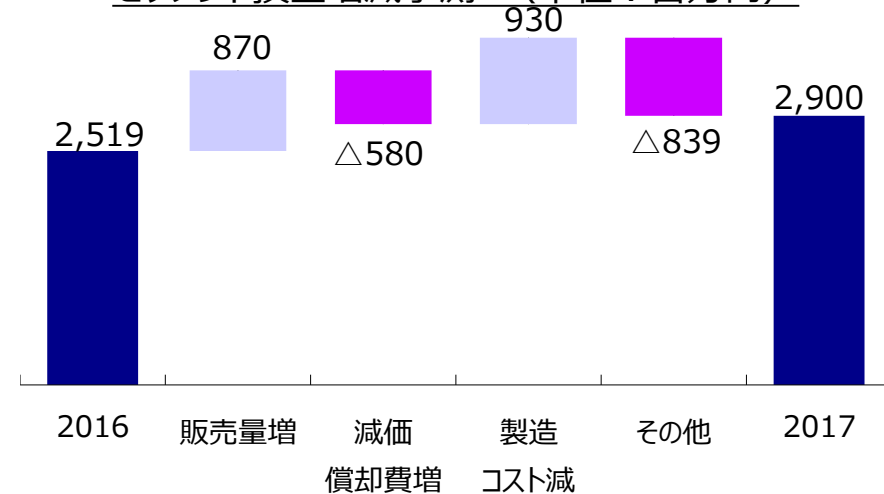
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減予測（単位：百万円）



セグメント損益増減予測（単位：百万円）



売上：669億円（対前期実績 6.2%増）

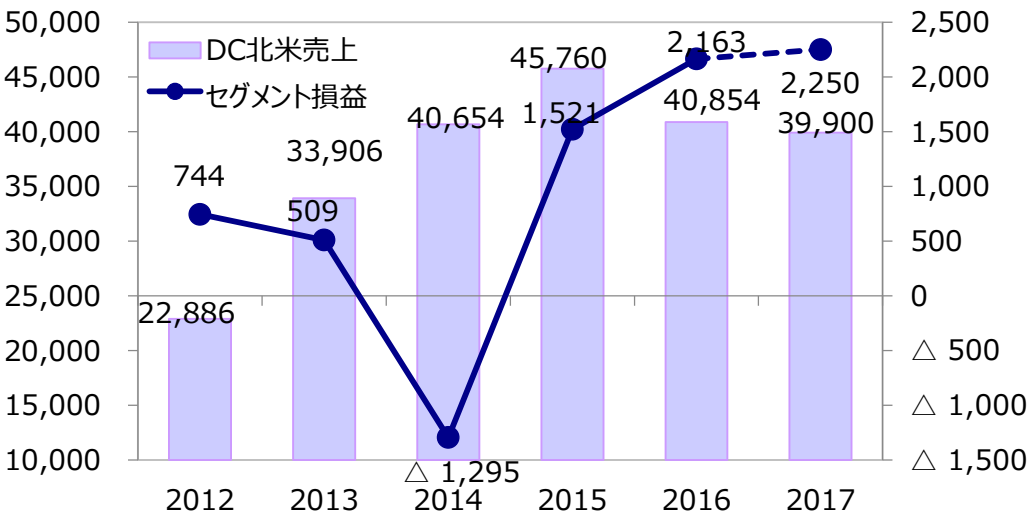
- 販売量は前期実績を上回る水準
- 地金市況は前期実績よりも上昇する予測

セグメント損益：29億円（対前期実績 15.1%増）

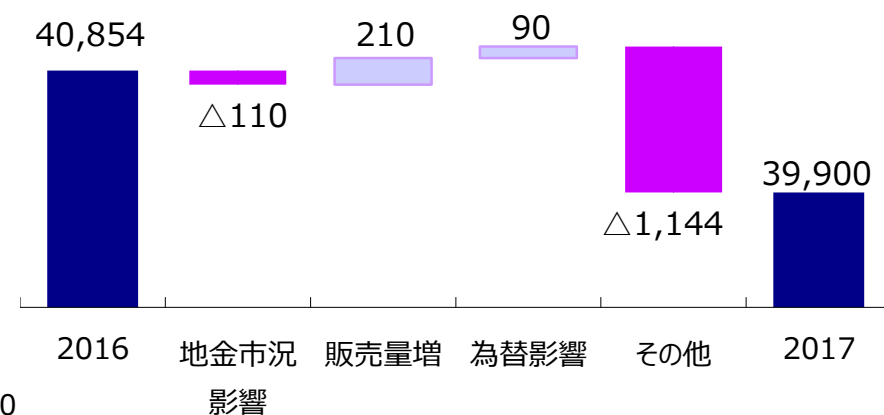
- 増量及び原価低減効果により増益予想

ダイカスト北米

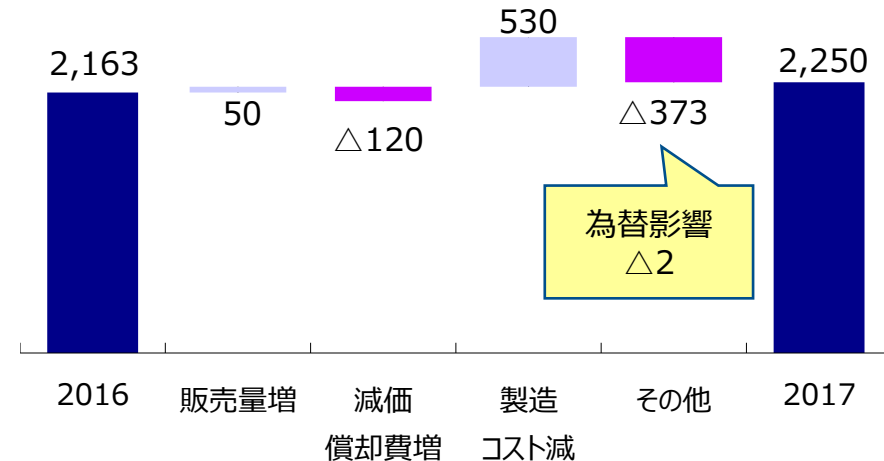
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



売上高増減予測 (単位：百万円)



セグメント損益増減予測 (単位：百万円)



売上：399億円 (対前期実績 2.3%減)

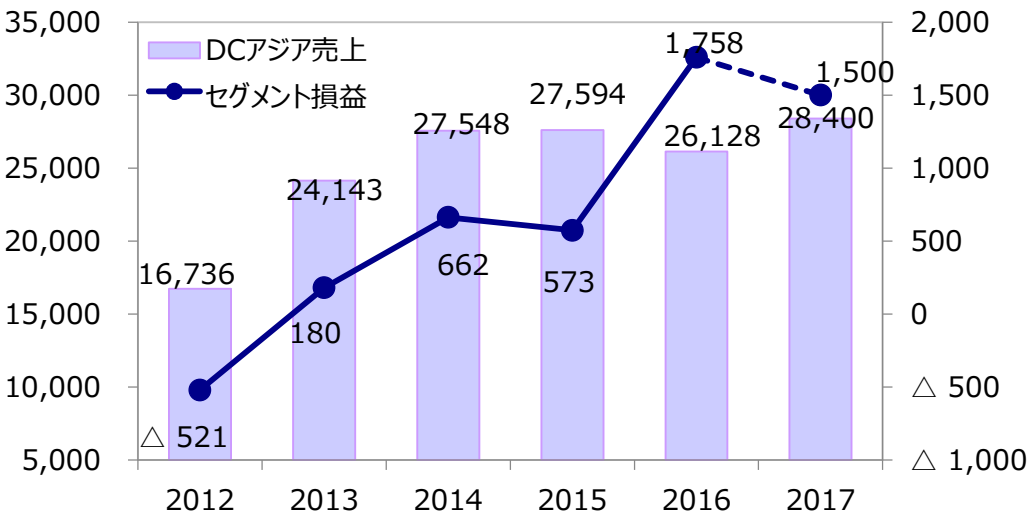
- 販売量は微増
- 金型・その他売上等は前期実績より減少

セグメント損益：22.5億円 (対前期実績 4.0%増)

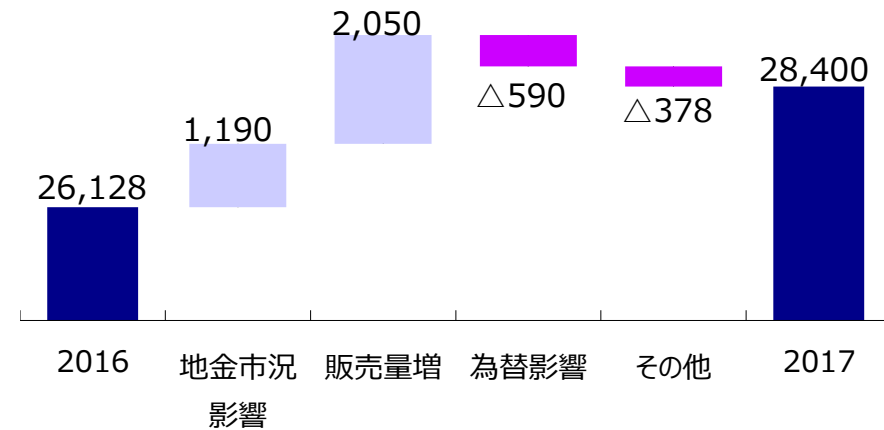
- 原価低減効果により増益予想

ダイカストアジア

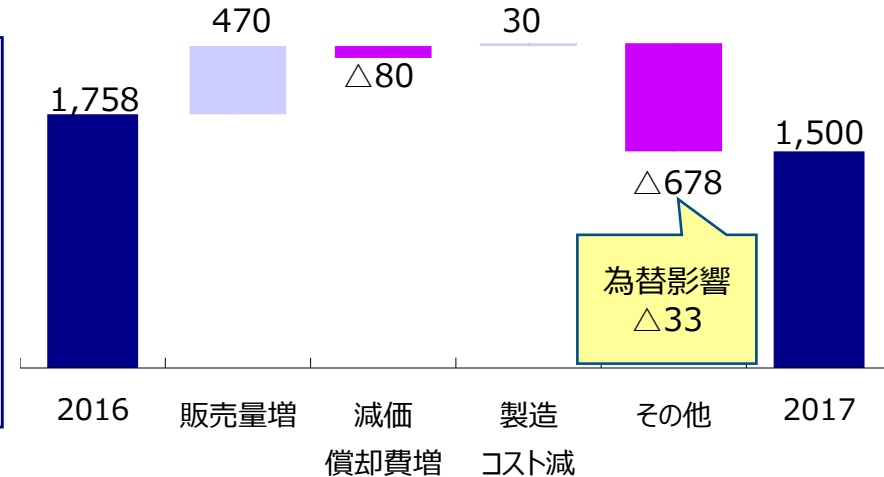
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減予測（単位：百万円）



セグメント損益増減予測（単位：百万円）



売上：284億円（対前期実績 8.7%増）

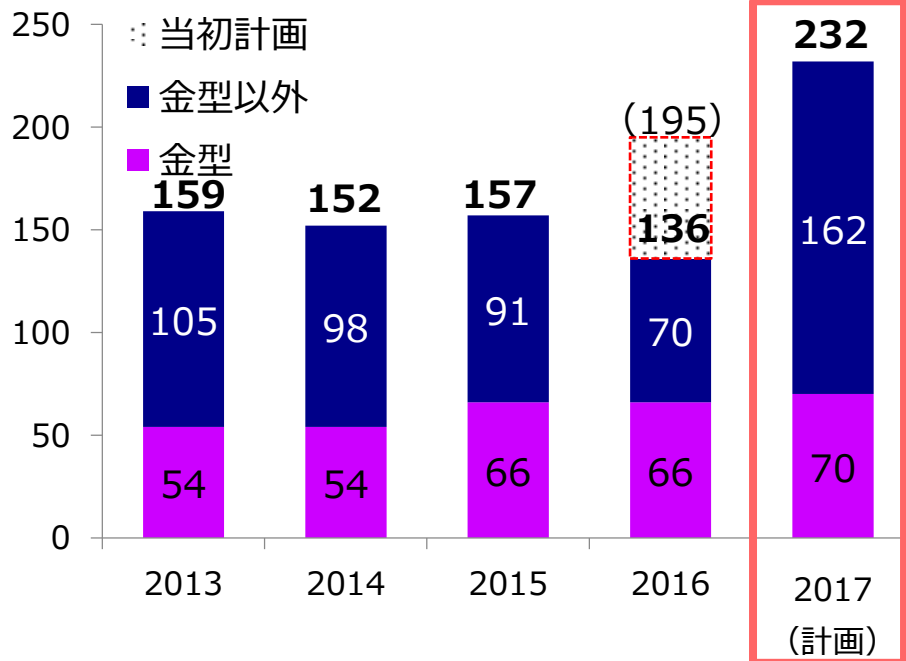
- 販売量は前期実績を上回る水準
- 地金市況は前期実績よりも上昇する予測
- 円高進行による為替影響

セグメント損益：15億円（対前期実績 14.7%減）

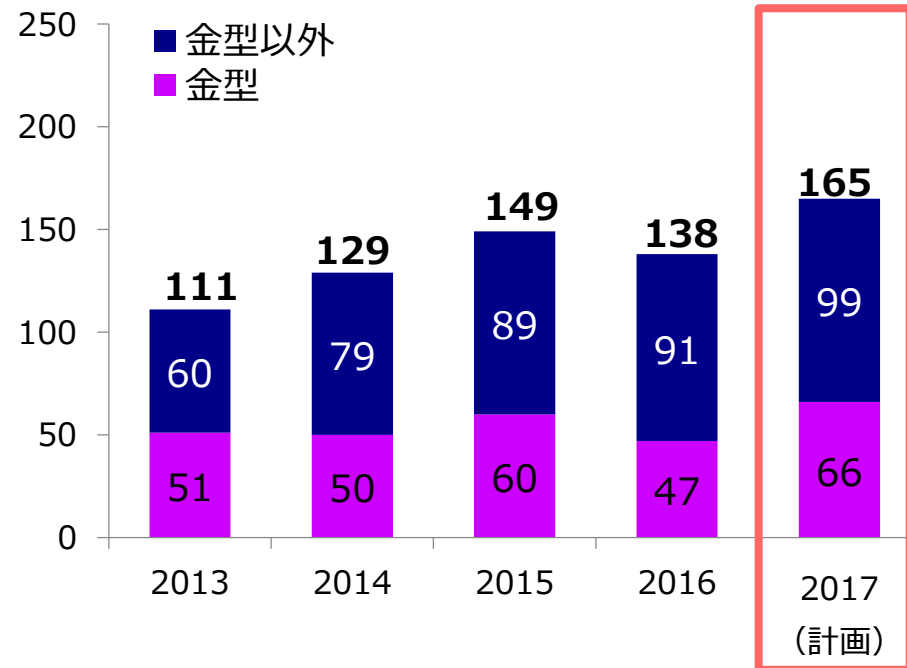
- 付加価値単価の増減等により減益予想

設備投資・減価償却の動向

設備投資額の推移 (単位：億円)



減価償却費の推移 (単位：億円)



2017年度

- 投資内容 ダイカスト：能力維持、合理化投資を中心 加工：海外拠点の能力拡充投資を中心
 - 設備投資金額：合計232億円（一般設備投資 162億円、金型投資 70億円）
- ※2016年度は顧客都合等による設備投資の見直し・延期で減少（当初計画 195億円 → 実績 136億円）

配当

1株当たり配当金	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 予想
(年間)	14	12	14	20	26
中間配当	8	6	6	8	12
期末配当	6	6	8	12	14
1株当たり純損益(連結)	287.10	40.85	118.50	193.15	170.24
配当性向(連結)	4.9%	29.4%	11.8%	10.4%	15.3%

- 2016年度は、期初計画の業績を達成できたため、中間配当を2円、期末配当を4円増配し年間20円の配当を実施
- 2017年度は、年間26円の配当を予想
- 中長期的な企業成長に必要な経営基盤や配当性向等を勘案し適正な利益還元を推進

ご説明内容

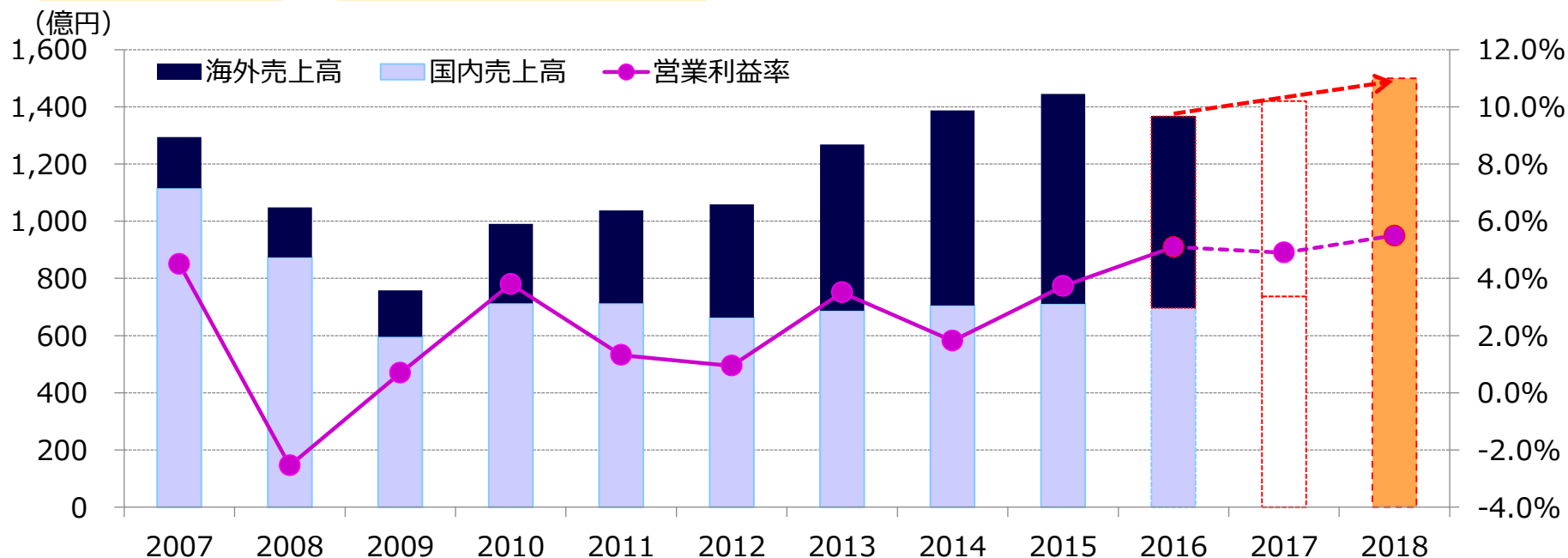
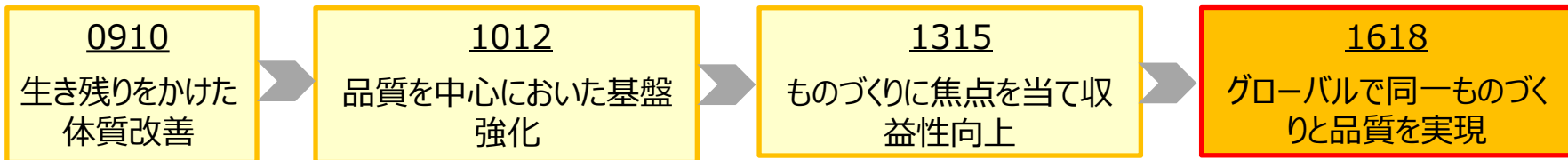
- 2016年度 決算概況
- 2017年度 通期計画
- 1618中期経営計画の進捗状況

10年ビジョンと中期経営計画の推移

「すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業」をめざす。

ものづくりを究め、ものづくりを進化させる

信頼を究めよう 2025



1618中計では1315中計を更にグローバルで展開し「ものづくり」「ひとづくり」「収益力強化」を図る

1618中期経営計画の基本方針

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありがたい
姿

- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億円 + α

1618中期経営計画

大型高難易度製品の顧客評価
No1実現

ものづくりを究める

生きいきと活動する
会社を築く

収益力を高める

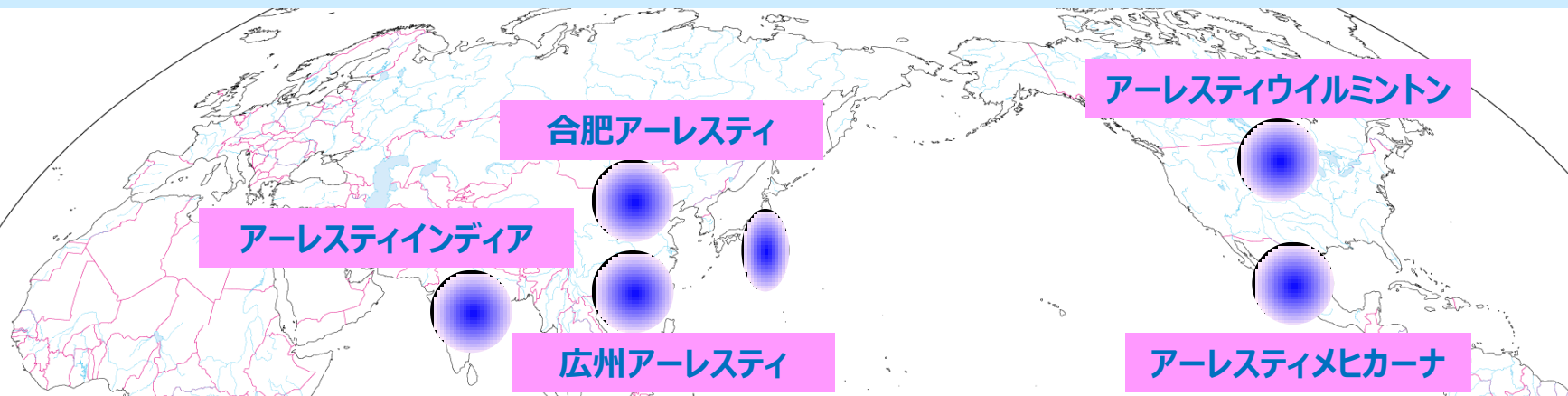
リスク管理を徹底する

1618中期経営計画の進捗状況

- ・ものづくりを究め、アーレスティプロダクションウェイを確立する事を基本方針に5つの柱を推進
- ・グローバルでしくみを統一し、同質のものづくりと品質を実現していく活動により水準の底上げを実施
- ・方針評価会でのPDCA管理を実施（国内4回、海外9回（北米、中国、インド・タイ各3回））

大型高難易度製品の顧客評価No1実現

大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No. 1を目指す



(1618中期経営計画)

- 大型高難易度製品の営業活動をグローバルで推進。
- 既存の日系メーカーのみならず、欧米系新規顧客に対しても積極的に営業活動を展開
- 投資効率、生産効率の優れたグローバルラインを構築し全拠点に水平展開する。全世界でお客様に貢献する。

(進捗状況)

- ◆ 北米・中国の営業強化：北米オフィス開設、中国北米営業人員増員、欧米メーカーへのコンタクト開始
- ◆ スバル様向けブロック専用ラインを栃木工場に構築
- ◆ 車体や足回りなどの軽量化ニーズに応えるための専門部隊を設置
- ◆ マルチスズキ様よりOver All Excellence Award受賞（インド） 日野様より品質優良賞受賞
瀋陽三菱自動車様より優秀サプライヤー賞受賞（合肥）トヨタ様より品質賞、ZERO PPM賞受賞（インド）

ものづくりを究める

グローバルレベルでの業務改革・標準化

事業（製品、サービス）あるいは機能（Q、C、Dなど）の目的・目標に対し、付加価値を高めていくプロセスと体制をグローバルで同一の水準で構築する

グローバル基準でものづくりプロセスを確立

製造条件の分析結果に基づく継続的な生産性改善活動と改善結果の他拠点展開でグローバルでしきみを統一

信頼を究める品質保証の確立

各部門、各製造工程で高い品質が保証されるしきみを築く。常にレベルアップを目指す改善活動を継続的に実施

技術のロードマップの実現

技術ロードマップに基づく技術的な課題の解決と他製品や他生産拠点へ水平展開の実施

徹底した製造原価低減活動

更なる生産性向上や効率化・合理化による製造原単位の低減等により、製造原価の低減を実現

(進捗状況)

- ◆ ① 鋳造・加工の最適製造条件の監視と管理を実施 ② ランクアップ活動による品質保証体制の構築
- ◆ ③ 技術のロードマップに基づく課題の解決と技術の蓄積を推進 ④ ロス低減と原単位管理による原価低減を推進
- ◆ 品質保証のランクアップ活動による取組みを展開・適用していくことでクレーム件数の低減を実施
- ◆ 方針評価会開催（国内1回/3ヶ月、海外1回/4ヶ月）Global Kaizen Meetingの開催

生きいきと活動する会社を築く

RST Wayを実践できる企業風土づくり

RSTWay

「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」

RSTWayを実践できる、風通しの良い企業風土を築く

社員のモチベーション向上

社員間の良好な関係構築

スピーディかつ正確な情報伝達

(進捗状況)

- ◆ Wayの取組みは前年比活発化し、各部門に浸透
- ◆ Way推進担当者会議の定期開催と情報共有
- ◆ RST Way表彰 Ahresty Award創設
- ◆ コミュニケーション活性化委員会設置、委員会活動
- ◆ 社内壁新聞発行、社内報、グローバル報発行

ものづくりを究める人材育成

RSTプロダクションWay

教育体系を整備運用して人材育成を強化
(グローバルRSTラーニングの充実)

社員のモチベーション向上


社員の知識、技能のレベルアップ

(進捗状況)

- ◆ 日本のRST学園を海外拠点に拡大
- ◆ 教育体系・カリキュラムの整備、テキストの整備
- ◆ トレーナー養成教育を開催
- ◆ インドQC協会から金賞受賞

収益力を高める

1618中期経営計画 経営目標値

	2016年度 (実績)	2017年度 (計画)		1618中期経営計画 (目標値)
売上高	1,366	1,420		1,500
営業利益率	5.1%	4.9%		5.5%
総資産利益率 (ROA)	3.6%	—		3.0%
自己資本利益率 (ROE)	7.9%	—		7.0%

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MPO_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。